

産地再生関連施設緊急整備事業

畜 産 課

産地再生関連施設緊急整備事業の概要

1 制度の目的

近年の円高の急激な進行による海外からの輸入の急増や海外への輸出の減少、高温障害や豪雨といった異常気象等による品質の低下や収量減少など、農業外の諸情勢の変化により国内の農業を取り巻く環境は厳しさを増している。

このような中、産地の農業生産基盤を維持するとともに、その持続的な発展を図るために必要となる共同利用施設等の整備を推進する事業を実施するものである。

2 制度の内容

- ・メニュー 畜産物共同利用施設整備（家畜排せつ物等処理利用施設）
- ・実施主体 県、市町村、農業協同組合、農事組合法人等
- ・国補助率 国 1/2、事業主体 1/2
- ・採択要件 費用対効果分析：投資に対する効果が適正か判定
事業費の低減：過剰とみられるような施設の整備を排除
受益農家：5戸以上

3 平成24年度計画の概要

石井養鶏農業協同組合において、高品質堆肥を低コストかつ省力的に生産するための共同利用堆肥化施設を整備し、プロイラー経営の維持発展に寄与する。

〔整備計画〕

- ・施設の名称 石井養鶏堆肥化利用施設
- ・工期（予定） 着工：平成24年10月
完成：平成25年 3月

平成24年度 産地活性化総合対策地区概要書

市町村名 石井町

事業主体名 石井養鶏農業協同組合

事業名				
国産農畜産物・食農連携強化対策整備費補助金 産地再生関連施設緊急整備事業（家畜排せつ物等処理利用施設）				
事業種目			事業内容	
施設整備事業			畜産物共同利用施設整備	
事業細目			事業実施地区	
家畜排せつ物等処理利用施設			石井町（加茂野）	
事業主体名	代表者名	受益戸数	事業対象畜種	年間堆肥生産量
石井養鶏農業協同組合	代表理事 竹内 正博	18 戸	ブロイラー	2,530 t / 年
事業費	国庫費補助金	県費	市町村費	事業主体負担
81,532.5千円	38,825千円	0千円	0千円	42,707.5千円

事業内容	規格等	事業	単価	事業費	備考
共同利用施設整備	密閉縦型堆肥化装置 （86m ³ ） 脱臭設備（50m ² ） 原料・製品置場 （480m ² ）	1基 一式 1棟		81,532.5千円	
計	—	—		81,532.5	

事業の目的及び効果

【目的】
円高により鶏肉の輸入量が増加し国産鶏肉価格が低迷していることに加え、配合飼料価格も高騰し、養鶏農家の経営は厳しい状況が続いている。さらに、本県は全国有数の養鶏県であり、鶏糞発生量も多く未完熟な堆肥では供給先の確保が難しくなっている。
このため、十分な堆肥化調製ができず販売力の乏しい養鶏農家においては、ますます堆肥供給先の確保が困難となる悪循環が生じ、経営存続が危ぶまれている。
そこで、高品質堆肥を低コストかつ省力的に生産するための共同利用堆肥化施設を整備し、耕種農家に安定供給することで、ブロイラー経営の維持発展を図る。

【効果】
堆肥化施設の整備により、養鶏農家及び共同処理施設作業員の労働時間短縮、堆肥の販売収益増加につながり、経営所得が向上。また、発酵処理機器設置により気温に左右されことなく堆肥の発酵が進み、耕種農家に対して高品質かつ安定的な有機堆肥を供給することが可能となる。
耕種農家では、過去5年間で29%高騰している化学肥料から安価な有機肥料への転換、良質堆肥の利用による品質の優れた農産物、差別化野菜等の販売を促進することにより、所得向上が見込まれ、耕畜連携の強化を図ることができる。

〈参考資料1〉 整備の概要

背景

○鶏肉の輸入量増加に伴う国産鶏肉価格低迷

○配合飼料価格の高騰

○農家周辺の住宅化

○化学肥料の高騰

【鶏肉輸入量】

H18～H22年度(平均): 38.9 万t/年
H23年度 : 47.5万t/年 (22%増)

【国内鶏肉価格(もも肉)】

H18～H22年度(平均): 633円/kg

H23年度 : 627円/kg (6円安)

H24年4～5月 : 574円/kg (53円安)

【配合飼料価格(ブロイラー後期)】

H18～H22年度(平均): 61,872円/t

H23年度 : 64,941円/t (3,079円増)

【化学肥料価格(H17を100)】

H18年度: 102.4% → → H23年度: 131.4% (29%増)

課題

○低価格な輸入鶏肉対策
国産鶏肉価格の低下(所得減少)

○ブロイラー農家の労働力不足
堆肥処理(個別→共同へ)

○堆肥の品質確保不足
季節により不安定
(低品質堆肥: 強いアンモニア臭)

○堆肥処理時の悪臭防止対策
地域の環境問題

施設整備の目的

〈養鶏農家、耕種農家の経営所得向上〉

○堆肥の発酵処理期間短縮
堆肥処理能力の向上(人件費削減)

○生産堆肥の品質確保
悪臭物質の分解除去(アンモニア臭)

○耕種農家への有機堆肥の利用促進
高品質堆肥の安定供給

整備内容

①密閉縦型堆肥化装置、1基(86m³)

②脱臭設備、一式(50m²)

③原料・製品置場、1棟(480m²)

④その他
電気工事、設計・監理、各一式

施設整備の効果

○経営所得の向上
【堆肥化処理時間の短縮】

H23年度: 4,368h/年 → H26年度: 2,549h/年
(1.2人/年)
(1,819時間削減)

【堆肥販売収入の増加】

H23年度: 2,937千円 → H26年度: 3,669千円
(732千円増)

○環境問題の解消

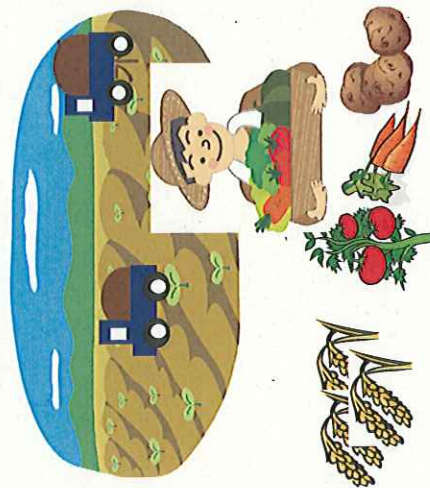
【高品質堆肥生産(アンモニア臭抑制)】
密閉縦型装置 脱臭装置 浄化槽

アンモニア(ピーク時)
5,000ppm → 50ppm以内 → 無臭化

○自然循環型農業の推進

高品質堆肥利用による耕畜連携の強化

有機質肥料(堆肥)の利用促進



飼料米増

農産物の増産

〈参考資料2〉施設フロア図

